

北浜にニッパヤシ果実が再び漂着

Shin KUBOTA : Fruit of *Nipa fruticans* Wurmb washed ashore at Kita-hama beach of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan as the second record in this area

久保田 信

南方系のニッパヤシ *Nipa fruticans* WURMB の果実 1 個が、2016 年 9 月 21 日に京都大学瀬戸臨海実験所の通称“北浜”に漂着した。台風 16 号が紀伊半島を通過した翌日の発見であり、その影響を受けてであろう。扁平なこの果実の長さは 85mm、幅は 70mm で黒色であった。しかし、本種の果実の特徴の一つとなっている頂部の繊維状の外果皮は、すっかり取れていた (図 1)。

筆者が本種の果実が以前に北浜へ漂着したの

型的な形をしていた。ニッパヤシ果実は最大で長さが 14cm に達するので (中西, 2008)、この北浜へ漂着した最初の果実はかなり大きいと言える。

ニッパヤシ果実の漂着記録は、本州の太平洋岸では千葉県から鹿児島県まで、日本海側では新潟県から福岡県までとなっている。日本での漂着記録は 1969 年からの 40 年間で 394 個もあってココヤシに次いで多いが、1979 年頃から減少している (中西・石井, 2010)。紀伊半島付近では徳島県沿岸 (池淵・茨木, 2005) や渥美半島 (はやし, 2013) での漂着記録がある。

なお、ニッパヤシはヤシ科の 1 属 1 種の変わり者で、北半球では東南アジア・インドのマングローブ湿地からわが国の西表島の河口まで、台湾を除き生育している (中西, 2008)。ニッパヤシには太い幹がなく、根元からたくさんの葉が何 m も伸長している。

引用文献

- 池淵正明・茨木 靖. 2005: 徳島県の漂着種子と果実 2. 漂着物学会会報, (12), 6.
- 久保田 信. 2015: 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に初めて漂着したニッパヤシの果実, 漂着物学会会報, (52), 17-18.
- 中西弘樹. 2008: 海から来た植物. 319 pp. 八坂書房, 東京.
- 中西弘樹・石井 忠. 2010: 日本本土における熱帯起源の漂着果実と種子の 40 年間の変化. 漂着物学会誌, 8, 7-11.



図 1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に 2016 年 9 月 21 日に漂着したニッパヤシ果実

を確認したのは 2015 年 10 月 14 日 (久保田, 2015) で、その果実も黒色で、長さ約 11cm で幅が 9cm あり、今回よりも一回り大きく、典

はやししげお. 2013 : 2012 渥美半島漂着ブレイク・その傾向と対策. 漂着物学会会報, (46), 4-6.

(〒 649-2211 西牟婁郡白浜町 459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所